

* 東京天文台百年記念誌資料—その3-27-2— 東京天文台年表(昭和35~43年)

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞346号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その1—」、349号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その2—」、353号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その3—」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目を—その1—、2箱目を—その2—、3箱目を—その3—としたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は3箱目の最後の48項目について報告したい。第353号のリストには、

27. 昭和24年~昭和52年と書かれた封筒 年表原稿 43枚

とある。アーカイブ新聞第835号(2015年6月25日)に「東京天文台百年記念誌資料III-27について」という記事に書いたが、これは東京天文台百年記念誌資料の明治元年から昭和52年に亘る年表の原稿の一部であることが分かった。今回は昭和24年~昭和52年の年表の第2段、昭和35年から昭和43年までの9年間の年表である。

昭和	事	項	出典	カ-トNo.
35 (1960)				
35. 1. 25	36吋望遠鏡仕上り、日本光学で製作中の36吋(91.2cm)光電赤道儀、1月25日に公用了。ケセル式反射鏡、光電測光に用いた。岡山天体物理観測所に設置す。		月. 53-2, p. 34 1960 (昭35)	5104
35. 2. 11	橋元昌英死去 前東京天文台技師、心臓弁膜症にて没す。平解 池田徹郎 記。 位置天文学部門を指揮。		月. 53-3, p. 64 1960 (昭35) 月. 53-4 特集 月. 53-5, p. 107 東京大学一覽 昭44-45	22
35. 3. 31	東京天文台敷地 2644坪を大蔵省へ、岡山天体物理観測所職員宿舍新設敷地 650坪を大蔵省より引き継ぐ		東京大学一覽 昭44-45	16029
35. 3. 31	JJC 報時 の廃止 廃止記 永年刊行の船舶、測量、天文関係者に親しまれていたJJC報時は、1960年3月31日をもって廃止す。		月. 52-6, p. 123 1959 (昭34)	5093
35. 3	新附 成文 教授 3月定年のため退職、以後東京理研に専任。		月. 53-5, p. 108 1960 (昭35)	548
35. 4. 25	萩原名譽教授にJ.C. Watson X射線 X-15 科学+P-3-1の招行? 覆米。4月25日贈呈式		月. 53-6, p. 108 1960 (昭35)	544
35.	74吋鏡 岡山天体物理観測所に着 4月11日 駿河丸で神戸着。他の船に撞みかえ 4月14日 玉島港で荷揚げ 15.16日 三ツツラにて竹林寺山に到着 25日 から解梱。		月. 53-5, p. 105 1960 (昭35)	5107

35.	岡山天体物理観測所 185センチ主鏡のとりつけ。 8月下旬 主鏡開棚 7月7日 日本光学, 日本真空両社共同でP.L.N.の真空蒸着完了 9月15日 日天工技師, 及び観測所職員の手による 重量物(重さ2トン)を主鏡内にとりつけた。	月. 53-11. P.L.N. 4 1960 (0235)	5111
35 10. 19	岡山天体物理観測所 南所 岡山県球磨郡豊後町 竹林寺山 (標高 570m) 188cm 反射望遠鏡 (1.5m ハーソンズ製) と 91cm 反射望遠鏡 (日本光学製) 設置完了。	月. 53-10. p. 208 1960 (0235)	5110
35 10	岡山天体物理観測所 南所 昭和29年以来設置中である。	東京大学一覽 昭36.37	16059
35.	岡山天体観測所の近況 直径20mの大型の組立工場の 完成あり	月. 53-3. P.L.N. 4 1960 (0235) 年度	5105
35	岡山天体物理観測所 新設された 71cm 光電赤道儀	月. 53-4. 表紙号 1960 (0235)	5106
35	建設完了岡山 190センチ反射望遠鏡	月. 53-7. P.L.N. 4 1960 (0235)	5108
35	岡山天体物理観測所の近況 建物 本館の一部 (127坪) と 190cm 鏡の設置 (着工あり)	月. 53-8. p. 127 1960 (0235)	5109
35	1960年のわが天文学界への期待 宮地政司	月. 53-1. p. 4 1960 (0235)	5103
35	天体暦の改訂 青木信仰	月. 53-1. p. 15	5102
35	1960年から天体暦 全面改訂 職費 (昭33と異なり) 昭35年現在 校舎 青羽隆司, 北村正利, 古在中秀, 石田忠郎	東大一覽 昭34.35	16076

77

昭和	年	項	出	頁	カ-1 No.
35	(1960)				
35	4	岡山 91cm 光電赤道儀 試験観測開始。	天23100年 昭35年表		
35	11 18	岡山 188cm 反射望遠鏡 試験観測開始	"		
35		協定世界時 (UTC) 正式に発定。	"		
35	4	理学部 天文学教室, 配布より本館へ移転	"		

100

昭和	年	項	出	頁	カ-1 No.
36	(1961)				
36	3. 31	辻光助教授 3月31日付定年退職	月. 54-5. p. 37 1961 (0236)		545
36	4. 1.	甲野三郎氏 4月1日付 東京大学教授昇進	月. 54-7. p. 138 1961 (0236)		545
36		91cm 天体反射望遠鏡 東京大田区大井, 日本光学工業KK工場内で組立てられたもの。 近く埼玉県栗平山 (標高 575m) に新設された。東京天文台の 観測所には据付けられた。焦点距離 457m, 架台 付の大型 栗平山付近の岡田川	月. 54-8. p. 157 1961. P.L.N. 4		5120
36		岡山天体物理観測所の南設に思う。 宮地政司記	月. 54-1. p. 7~ 1961 (0236)		5112
36		岡山天体物理観測所 (岡山県竹林寺山頂) に完成した 188cm 反射鏡	月. 54-1. 表紙号 1961 P.L.N. 4		5113

36	24吋望遠鏡談義 萩原雄祐記	月. 54-1. p. 4~	5/14
36	竹林寺山子算談義 東大経理部長 鶴田通進7位	1961(昭36) 月. 54-2. p. 24~	5/15
36	188cm及91cm反射望遠鏡ト-1の完成予定 オ-1図 断面図, オ-2図 二階平面図, オ-3図一階平面図 天文教授 施設部長 石垣芳男記	月. 54-2. p. 26~ 1961(昭36)	5/16
36	星場のとれり日記, 作掌原等 10枚 石田五郎	月. 54-2. p. 27~	5/17
36	光電測光の新しい設備. 古畑正秋 岡山天体物理観測所に光電測光用の91cm(36吋)赤道儀 新設され, それに付属する測光設備も, ほぼ整う. オ-1~オ-5図付 写真 3. 図 2	月. 54-3. p. 46~ 1961(昭36)	5/18
36	岡山天体物理観測所に到着したフ-1分光器 188cm望遠 鏡に使用したフ-1分光器(回折格子 600本/mm)とカセグレ ン型分光器(水晶プリズム)	月. 54-4. p. 18~4 1961(昭36) 2枚	5/19
36	188cm望遠鏡解剖 石田五郎記 p14 極軸 オ-1図~オ-3図 p136 主筒部 オ-1図~オ-5図 月54-11. QMとSM オ-1図~11図	月. 54-9 {p. 160 1961(昭36) 4枚 月. 54-10 {p. 186 1961(昭36) 4枚	5/21
36 12 17	日食観測隊出発 二月5日の皆既日食のため 12月17日鹿児島大学水産学部の 練習船鹿児島丸で東港出発 ニューギニア工に向う. 乗客 天宮まゆみ 斎藤, 日比井, 春, 中村, 平山の諸氏	月. 55-1. p. 10 1962(昭37) 月. 55-2. p. 11~4 2枚 1962(昭37)	5/22
36 10.	菅平観測所の36吋反射望遠鏡を入れた建物の建設 1961年 10月05. 三洋建設株式会社請負	月. 56-1. p. 4~ 1963(昭38)	5/27
36	菅平観測所建設工事概要. ト-1の2階建円屋根直径 10.5m, 三洋造船社請負.	月. 55-7. p. 156 1962(昭37)	5/25
36	菅平観測所ト-1 建物の建設風景 建設中の夜光-極望遠鏡観測室----	月. 56-1. 本誌カラー 1963(昭38) 月. 57-3. p. 11~4 2枚 1964(昭39)	5/26
36	"	月. 57-1. p. 11~4 2枚 1964(昭39)	5/33

101

昭和	号	項	出	典	カードNo.
36 (1961)					
36 3	岡山本館落成		天2台100年. 昭年巻11		
36	恒星分光部門設置		"		
36	Kコロナグラフ乗替に設置		"		
36 3	生産技術研究所のロケットによる大気光観測開始.		"		
36 11	岡山の観測環境保全のための岡山県との他と折衝開始		"		

102

昭和	号	項	出	典	カードNo.
37 (1962)					
39. 2 5	日食ニ関しての工. (皆既時, 40) 斎藤, 泰久撮影, 四連カメラ による太陽コロナの偏光写真, 100mm 日食観測記 首藤園治 全般経過 月. 53-4 (1960), 観測計画内容 月. 54-8 (1961)		月. 55-5. 表紙, 110 1962(昭37) 1枚 p. 11~4		5/23

昭和	要	項	出	典	カードNo.
27 (1952)					
27	2mφ (トランシット型) 3000 MHz 太陽電波強度		赤羽氏		13003
27	ロンビック (木製) アンテナ 100~140 MHz 太陽電波動		赤羽氏		13004
	スアートル				
27	マイクロストレーターの設置 (未記)		月. 45-1, p.10		5049
27	東経コナ観測所に新設された日本光学製コナグラフ-類		月. 45-2, 巻紙写本		5050
27	光電測光装置をとりつけた東京天文台の26インチ屈折望遠鏡		1952. (昭27)		
	一字兵-		月. 45-4, 巻紙写本		5051
			1952. (昭27)		
27	東京天文台に新設された太陽電波観測用の2mの反射鏡		月. 45-6, 巻紙写本		5052
	一字兵- 鏡の背部にあるものは3000 MC 受信用の		1952 (昭27)		
	オノ検波増幅器を54" 準波管				
27	10m の電波望遠鏡 建造中. 反射鏡の鉄骨完成し		月. 45-7, p.107		5053
	天文台に搬入される. 総重量 8トン.		1952 (昭27)		
27	八幡野 夜光観測所 古畑記		月. 45-7, p.107		5054
	電磁層委員会との協同観測が年に4回行われ, その時夜光の		1952 (昭27)		
	強度の記録をとる. 以前は東京天文台で行っていたが				
	4年ほど前からこの地で観測.				
27	報時設備, 水晶時計		月. 45-8, p.123		5055
	国内の希望と, 諸外国との均衡をけるために整備を急いで		1952 (昭27)		
	いた報時設備の約半分が出来上った.				
27	東京天文台の浮島天頂筒の頭部		月. 45-12, 巻紙写本		5056
	一字兵-		1952. (昭27)		
27	出版		東京大学一覽 昭18-27		16061
	東京天文台年報 (昭元), 東京天文台報 (邦文)				
	東京天文台 天文短編報告 東京天文台 天文研究報告				
	東京天文台 太陽電現象報告 暦象年表 等				
27	天体電波部門設置.		天文台100年, 昭新報11		
27. 8	3000MHz の連続観測開始		"		
27. 10	水晶時計群の整備されリ-フラーの使用停止		"		
27	ローマの国際天文学連合総会で暦表時採択		"		
27	板垣 権宗 教授 3月13日 地理調査所に転任		月. 45-5, p.74, 昭27		16063

昭和	要	項	出	典	カードNo.
28 (1953)					
28. 10. 1	東京天文台 才21号宿舍 22棟を大蔵省引継ぎ		東京大学一覽 昭44-45		16031
28	10mφ赤道儀式		赤羽氏		13005
	3000 MHz, 200 MHz				
	太陽電波, 月面電波				
28	ロンビック アンテナ 2基		赤羽氏		13006
	200~700 MHz 太陽電波 動スアートル用				

37	3	9	服部忠彦(観測所所長)昭37.3.9死去, 53才, 1908.7.1.特選送葬 葬儀 日本文学会理事長 藤田良雄, 悼辞 池田徹郎, 追悼 論文著作目録, 写真あり.	月. 55-2, p.83, 701-4 1962 (昭37) 322 月. 55-6 特集	23
37	3	28	竹林寺山の山火事(岡山) 3月28日午前11時頃, 観測所 西南約2km 杉谷谷付近の山林から出火, 約50ヘクタールの 山林を焼き 翌29日午前1時頃全焼, ドーム周辺緊急伐採 観測所は無事.	月. 55-6, p.140 1962 (昭37)	5/24
37	3		東京天文台 子午線部長 中野三郎教授 昭37. 3月末定年退職 昭2. 東京天文台入台以来 子午儀による時刻観測, 子午環に よる月・惑星・恒星の位置観測.	月. 55-6, p.140, 701-4 1962 (昭37)	526
37	4		岡山天体物理観測所 正規の観測始まる.	月. 63-1, p.301, 1970 (昭45)	5190
37	10	16	昭和37年10月16日制定の東京大学東京天文台規則(その後数回改正あり).	東京大学一覽 昭44-45	16007
37	10	16	東京天文台規則の制定.	東京大学一覽 昭44-45	16028
37	10	30	東京天文台堂平山観測所を新築	東京大学一覽 昭44-45	16027
37	11	1	堂平観測所 兩所式挙行, 91cm反射鏡写真機披露. 麓の平公民館にて開行式, 翌2日観測所のドーム, 望遠鏡, 一般見学者に公開. 堂平観測所の竣工(広瀬秀雄, 古畑正秋, 下保茂, 富田三一郎) 91cm反射鏡写真機 日本光学工業会社による設計製作.	月. 56-1, p.22 701-4, 1024 1963 (昭38年)	5127
37	木		堂平観測所完成	東京大学一覽 昭36-37	16058
37			昭和37年の現状 講座が「つとえた 恒星分光」 著者の動向あり	東京大学一覽 昭36, 37	16050
37			昭和37年現在職員(昭35と異なす人) 技官大城義名, 下保茂 河野公昭, 青木信仰, 西尾三, 田鍋浩哉	東京大学一覽 昭36, 37	16049
37			人工衛星・探用段階に入り, 天文台では測地の目的で観測基地 を設置. 九州では, 鹿児島ラ・サール学園が選ばれ, 1962 年から1974年3月6日迄 12年にわたり, 谷山観測所設置の 東京天文台 人工衛星観測所, ラ・サールに於ける前記 鹿児島ラ・サール学園 山口志郎雄記	月. 62-9, p.216 1974 (昭49)	5224
37			臨時職員定員化.	天文台100年略年表11	
37	12		堂平91cm反射望遠鏡試験観測開始	"	

昭和	要	項	出	典	74No.
38 (1963)					
38	3	木	東京天文台長 宮地政司博士 3月末定年退任 (1957年台長) 広瀬秀雄教授 東京天文台長(1961) 東大・天文学教室 鈴木政敏 教授 3月末定年退任.	月. 56-6, p.121 1963 (昭38)	547
38			24m中(固定球面鏡) 1420 MHz 中性水素線	赤羽氏	13011
38			東京天文台に新設された電波観測用球面鏡, 開口径24m 球面半径 20m.	月. 56-5, 701-4 32 1963 (昭38)	5129
38			24m球面鏡 赤羽賢司 論文あり, 才田三三郎	月. 56-7, p.130	5129 4011

38	7. 21	皆既日食 (晴、成功、晴夜明け) 1963年7月21日の皆既日食観測計画 斎藤国治 月報54-6 (1961) に青木氏の記事あり。 東京天文台 測光部 (古田正秋、中村、青藤)、測光部合光部 共同 飛竹城上へ観測 (清水、田鍋)、合光部 (有兵 国治、大沢、泰、東條) 月報56-9 皆既日食の本影経線 清水 実氏 提呈 北海道樽前山上空 (高度 約 5200m) に2 1963年7月21日 北海道皆既日食概況 皆既等 東京天文台 合光部 - 6周走地方気象台 測光部 - 千歳南方の樽前山台 C-4157F7 機で5700m上空	月. 56-4, 1763 (0238) 月. 56-9 表紙 1963 (0238)	5128	
38		岡山の188 cm 口径の蒸着	月. 56-8, 表紙 1963 (0238), p. 150, p. 150	5130	
38		堂平 91 cm 天体反射鏡字像儀の異動装置 日本誌林高須若雄 才11回 ~ 14回 写真上.	月. 56-8, p. 150 1963 (0238)	5131	
38	8. 10	前山仁郎死去 急病 (脱卒中) の中の死去. 49才9ヶ月 東京天文台で毎年、暦計算担当、与兵衛、田舎歴と著作目録. 石坪 友雄、森内 清、佐藤友三.	月. 56-10, p. 204 1963 (0238) 56-11, p. 221~	24	9. 20
38	11. 10	火田中武天 死去. 急病のため. 49才10ヶ月 大正3.1.1 和歌山生 字あり. 主要論文著作目録. 年評 日本天文学会理事長 - 柳清一 悼辞 宮本正太郎, 早川幸男, 海野和三郎, 宇山史生.	月. 57-1, p. 18 1964 (0239) 月. 57-2, p. 44 略歴, p. 33 ~	25	
38		1963年から5か年計画で国際天文連合の要望に答える標準星(SRS) として "Bright" Stars の観測が始まりました.	月. 63-4, p. 105, 1970 (0245)	5185	
38	11	三鷹のよみ" 堂平に自動流星儀設置	天文台100年時表212		
38	9	才14回国際電波科学連合(URSI)総会東京で開催	"		

104

昭和	要	出	典	冊数	
39 (1964)					
39 3 末	堂平, 大気光極望遠鏡観測室完成 3月末建物完成 大気光観測一部開始 極望遠鏡 器械設備整備中	月. 57-7, p. 132, 1964 (0239)		5136	
39. 4. 1	国立学校設置法施行規則 東京天文台の附属の研究施設 - 飛竹工口観測所 岡山天体物理観測所, 堂平観測所, 人工衛星国内計算施設 野田山太陽電波観測所.	東京大学一覽 02 44-45		16005	
39. 4. 1	文部省令 才10号 国立大学の大学附置の研究所の研究部門に国科省令の 改正. 東京天文台の分光を分光・恒星分類に改正.	東京大学一覽 02 44-45		16026	天文台100年時表212
39. 7. 30	早乙女清彦博士死去. 39才 明 8. 12. 5 東京飯田町生. 写真, 略歴, 主要論文目録. 年評 日本天文学会理事長 - 柳清一 悼辞 宮地政司 (元東京天文台長) 藤田良雄 (東大理) 昭和3年3月 東京天文台長. 昭和3. 理士村本官並に兼官免状	月. 57-10, p. 203 1964		26	

39. 10. 13	東京天文台大泉敷地 1791坪を東京府芸大より新厩舎と交換	東京大学一覽 昭44-45	16025
39	複合八木アンテナ X2 612MHz 太陽電波干渉計	赤羽氏	13013
39	0.8mφ, 17GHz, 太陽電波強度, 偏波	赤羽氏	13012
39	堂平の建設風景 建設中の夜光極望遠鏡観測室	月. 57-1, アルバム2枚 1964 (昭39)	5133
39	岡山天体物理観測所 30cm反射望遠鏡新設 活動開始 日本光学工業製, 焦点カセレン専用. 直接写真, 光電測光装置装着. ドーム直径3.8mの内筒形	月. 57-3, アルバム2枚 p. 60. 1964 (昭39)	5134
39	堂平山の自動流星写真機. 91cm反射ドーム 南方約50m トク 論文 富田三一郎記 展覧. 東京天文台の流星観測	月. 57-4, 表紙 アルバム5枚 p. 75~ 1964 (昭39)	5135
39	国産のシムットカメラ. 日本光学工業社にて組立中, 堂平に設置予定. 球面鏡の直径65cm, 焦点距離1m, シムット補正板の直径50cm, 視野6度.	月. 57-8, 表紙 1964 (昭39)	5146
39	東京天文台 古在由香氏. 人工衛星の運動の研究により昭和39年度朝日文化賞を受ける.	月. 57-3, p. 60 1964 (昭39)	559
39. 3	千葉県丸山の夜光観測所を廃止, 器械類を堂平大泉光観測室へ移転	天文台100年周年表	
39	IQSY (太陽活動極小期国際観測年) 1964~65	"	

105

昭和	要	項	出	典	付No.
40 (1965)					
40. 3. 10	東京天文台堂平山観測所実験室の新築		東京大学一覽	昭44-45	16024
40. 4. 1	人工衛星国内計算施設を設置		東京大学一覽	昭44-45	16023
40. 5. 30	皆既日食 5月30日 南太平洋 ケニア諸島 (ジバウ: 昭39)		月. 58-2, p. 27 1965 (昭40) アルバム	1965	5137
	1965年の皆既日食の観測計画 (斎藤国治)		月. 58-6, アルバム		
	皆既日食観測計画の出発式 3枚				
"	マニラ日食観測記 (斎藤国治) 太陽静穏年向中には 起す唯一の皆既日食 東京天文台 団長 斎藤国治以下10名		月. 58-10, p. 225 1965 (昭40) アルバム6枚		5140
40. 7.	東京天文台 (三鷹) の本館建設工事はじめ。昭和20年冬に 本館が焼失後、昭和24に木造の本館が建てられた。その後 天文台の拡張にもよる、建物を守るまで死朽化したため 本館建設決定、7月より工事開始。三鷹の研究室、地下、地上一階、 事務部の建物と共に同時に併設して建築。		月. 58-8, p. 136 1965 (昭40)		5139
40. 9. 20	東京天文台敷地 4,161坪を東京都有地 9514坪と交換。		東京大学一覽	昭44-45	16022
40.	新設された東京天文台人工衛星国内計算施設。 昭和40年度新設設備のシムット計算機購入の予算配分は3. OKITAC-50900型購入。 p. 116 人工衛星国内計算施設に設置された装置の性能 (11~17)まで		月. 57-5, アルバム6枚 1966 (昭41) " p. 116		5141
40.	1.2mφ x 8 17GHz 太陽電波干渉計. トランソット型		赤羽氏		13014
40	堂平山の極望遠鏡観測機 表紙 極望遠鏡完成に際して 南口直南 図あり		月. 58-5, 表紙 アルバム2枚 1965 (昭40) p. 112		5138

40. 8	東京の50cm 望遠写真機 仮格納室設けらる 望遠写真機 シュミットカメラ型 シュミット補正レンズ口径 50cm, 焦点距離 100cm, F/2 視野 6°, 室内望遠鏡 屈折式口径 10cm, 焦点距離 150cm	月.59-4, 写真 2枚 1966(昭41)	5147
40	東京の宿舎が竣工。(25前)	月.60-8, p.157	5149
40 1	東京に新設された極望遠鏡による定常観測の1月1日開始	東京天文台100年誌第1号	
40 3	612MHz 電波干渉計完成(三鷹)	"	
40 4	人工衛星国内計算施設管区(三鷹)	"	
40. 7. 26	宇宙航空研究所のロケットにより外部20x6.5cm 内部黄道光の観測成功(古田6)	"	
40	天文台記念日(10月29日)制定, 職員表彰内規制定	"	
40 10. 21	東京コロナグラフにより地谷・岡望星の近日点通過の撮影に成功	"	
40 10	野辺山に予備観測開始	"	

106

昭和	要 項	出 典	カードNo.
41 (1966)			
41. 2. 28	東京天文台研究室および管理棟の新築	東京大学一覽 昭44-45	16021
41.	三鷹東京天文台本館の新築完成。4月の使用開始 3階建研究室と、地下室をもつ地上2階の事務室, その他 付属する建物と成る。研究室1階には人工衛星国内計算施設が設けられている。	月.59-5, 表紙 1966(昭41)	5142
41	新倉倉が竣工して東京天文台 一航空写真一	月.59-8, 写真2枚 1966(昭41)	5143
41. 3. 31.	東京天文台敷地 1708坪を大蔵省へ引き渡す	東京大学一覽 昭44-45	16020
41. 4. 1.	東京天文台に人工天体運動の研究部門を加える	東京大学一覽 昭44-45	16019
41. 8. 17	岡山天体物理観測所に新設された太陽クマ望遠鏡の 竣工式を行なう。	月.59-10, p.222 月.57-11, 写真2枚 1966	5145
41. 11. 12.	1966年11月12日 望遠日食 (時, 成功=昭41) 11月12日南米の日食観測, 東京天文台観測隊 斎藤国治教授他 3名, ベルーのツルキハ市付近 観測予定, 海拔約 4,100m. 現地時間 8時14分頃に約 80秒間食が見られた。	月.59-10, p.222 1966 (昭41)	5144
41	ベルー日食観測記 斎藤国治 ベルー(国)ツルキハ市へ 出張, 太陽コロナの偏光写真観測(斎藤国治, 秦茂) 糸灰 5.5μ 彩層の閃光分光観測。(昭工学部, 手山達)	月.60-2, p.28 写真2枚 1967(昭42)	5154
41	ベルー日食のコロナ, 1966年11月12日 望遠日食状況写真 フィルムフジカラー, ASA 100, 露出15分の1秒, 望遠鏡五藤 光学機 口径 60mm, 焦点距離 120cm	月.60-1, 表紙 1枚 1967(昭42)	5153
41	斜入射法による日食スペクトル 1966年11月12日ベルー日食 (表紙写真) p.201 本文 昭工学部=部言記	月.60-10, 表紙 p.201, 写真2枚 1967(昭42)	5155
41.	秒の定義改訂の企て 1966年度, 国際電波科学連合総会開催され, ここでの定義 をセシウム133の量子遷移に基づくものに改めよという勧告が行われ, C.C.D.S. 委員長から各委員の意見徴収が行われ, 日本では 諮問委員会に東京天文台長, 電波研究所長, 計量研究所長 が委員として参加。	月.60-1, p.10 1967(昭42)	5148

41. 3	人工衛星国内計算施設にOKITAC 5090Da 増付完了.	東京天文台100年誌巻14
41.	分光部と恒星分光部と恒星分光部に分離	"
41. 9. 27	宇宙航空研究社の大型バルーンを利用し黄道光の観測を試行	"

昭和	要	項	出	典	号
42 (1967)					
42. 3. 10	東京天文台岡山天体物理観測所7-7型太陽望遠鏡観測所を新築	東京大学一覽	昭44-45	16018	
42. 6. 1	天体電波と太陽電波に、分光と恒星分光に改めず。 元東京天文台長 萩原雄祐氏勲一等瑞宝章贈らる 末元若三郎 東大教授 今年度 学士院賞受く、杉原の研究 低遠説実証	東京大学一覽	昭44-45	16017	
42	才13回 IAU 観測会の 報告. 昭和42年8月22日から31日PZC 42 コスロバキヤ, プラハ市にて.	月. 61-1. p. 42 掲載	1967 (昭42)	901P	
42	1.2 m中 55GHz, 月, 太陽, 金星, 電波強度	赤羽氏		13015	
42	7-7型太陽望遠鏡ドーム 岡山 観測準備室, 光学機械室, 暗室, 天分光器室 機械室	月. 60-5. 表34	1967.	5150	
42	堂平観測所の空中写真. 91cm 望遠鏡ドーム, 極大口径観測室, 望遠鏡室	月. 60-8. 表14	1967	5152	
42.	堂平観測所の近況 関口直樹	月. 60-8. p. 157	1967	5149	
42	太陽電波干渉計建設用地 長野県 野上山 太陽電波干渉計の建設計画. 高倉達雄記 今年度より3年にわたる年次計画で, 周波数 160 MHz (波長 188cm) の大干渉計を総額1億5千万円を予算で 長野県南佐久郡南牧村の野上山高原(138°29'E, 35°56'N) に建設する運びとなった. 才1回 160 MHz 干渉計アンテナ配置図 才2回 最終記録方式	月. 60-10 p. 114 掲載	1967 (昭42)	5151	
42	太陽黒点と粒状斑 1967. 8. 24 軽井沢天文台 20cm 屈折 東芝 V01-53 フィルタと濃度1.2(%)の減光フィルタ使用. 露出時間 1/500. 粒状斑の撮影 入江 誠記 p. 228.	月. 60-11. 表紙	" p. 114 372	5156	
42	カーネギー研究所が IX-ジェツ-7" 寄贈する.	月. 66-5.	1973 (昭48)	5219	
42 12	セシウム原子時計1号機設置	天文台100年誌巻14			

昭和	要	項	出	典	号
43 (1968)					
43. 3. 30	堂平観測所パーカーカメラ室新築	東京大学一覽	昭44-45	16016	
43. 5.	5月9日から21日まで 才11回 COSPAR (Committee of Space Research) の用務) 総合東京会場あり. ・表紙「太陽フレアと宇宙空間研究」シンポジウムの会場	月. 61-7. 表紙	p. 151	9020	
		1968 (昭43)			

	・ TUBA 6枚 (I) 東京大学経国連合会館にて (II) 東京天文台の見学 (四) 菅平観測所の見学			
43. 5.	新しい観測室に YR-F-T: B.N. カメラ 1958年3月以来 三鷹の東京天文台で、人工衛星の位置観測に活躍していたペーカ ン・シュミットカメラの新しい観測室が 埼玉県・菅平観測所 敷地内に完成し5月に移轉完了 菅平観測所に移轉した B.N.カメラ 富田弘一郎記 1.2月	月. 61-8. 表紙 TUBA 3枚 1968 (昭43)	5165	
43. 6. 15	6月15日の日付け方 イカス地球最接近 九州イカス観測所行 竹内端夫記	" p. 211 1968 (昭43) 月. 61-9. p. 239 1968 (昭43)	5169	
43. 10. 29	天文創立90周年記念式挙行. 90周年誌出版	月. 62-3. 1969 (昭44)	5169	
43. 11. 9	高槻市長行啓 28日に在畑日記 新台巻と53	天文台100年 昭44年		
43. 12.	日立製作所試作 人工衛星用 レーザ 測距儀. 1968. 12月 03 菅平観測所に新設された観測室で実験を開始. p. 39. レーザによる人工衛星測距 竹内端夫記	月. 62-2. 表紙 1969 (昭44) 赤. 37枚	5168	
43	0.3 mφ 35 GHz 太陽, 月 (三ヶ坂)	月. 62-2. p. 39 1969 (昭44) 赤. 37枚	13016	
43	新設のクーラー型太陽望遠鏡 岡山. 口径 65 cm. 全長 3.5 m 距離 37 cm. 光学部分はすべて溶出水晶製, 光電自動ガイド装置 具元近く分光器 (グレーチングとシリコンエミール) を完成予定 太陽面の超微細構造 (太陽面の 350 km 程度, 見かけの角直径 0.5 秒) の分光観測目標とに作られ シーロ スタットを用いた 赤道儀式に太陽を追従するものが特長 TUBA 4 ドー4. 太陽熱を吸収しように建物外壁 ドー4の屋根 酸化チタン系塗料などで純白に塗っている.	月. 61-3. 表紙 TUBA 4 1-4 1968 (昭43)	5157	
43	最近の岡山天体物理観測所の全景 空中写真 毎日新聞社撮影 188 cm 反射望遠鏡, 91 cm 光電赤道儀, 50 cm 反射望遠鏡 クーラー型太陽望遠鏡, 本館, 1F 研究室, 2F 観測 者用の宿泊室. p. 96. 岡山 きたりのころ 石田五郎記	月. 61-4. 表紙 1968 (昭43)	5163	
43.	太陽コロナの微細構造 齊藤国治	" p. 96		
43.	太陽コロナの微細構造 齊藤国治	月. 61-5. p. 120 1968 (昭43)	5164	
43.	シュミット望遠鏡計画 高瀬文志郎記 1. 建設の意義, 2. 研究プロジェクトの管理, 3. SAM のシュミット 望遠鏡案	月. 61-9. p. 233 1968 (昭43)	5166	
43	糸ヶ崎の観測所の撮影 (出版状況表 1968. 11. 21 12/15 ~ 13/31 (J.S.T.))	月. 62-12. 表紙 1969 (昭44)	5176	

昭和	要	項	出典	カットNo.
43 (1968)				
43. 1.	岡山クーラー型太陽望遠鏡完成		東京天文台100年 昭44年	
43. 1	東大紛争初発		"	
43. 5. 6.	野田の太陽電波観測所起工式		"	
43. 5	アメリカ海軍天文台よりセシウム原子時計運搬比較開始		"	
43. 11	黄道惑星などの観測のために長野県日野村へ観測所を設け準備 観測開始		"	
43. 11	東京大学瑞島天文台開所.		"	

この号では、昭和 35 年から昭和 43 年までの 9 年間の年表を掲載した。第 838 号には昭和 44～46 年分を掲載する。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp